

## 茶の高カテキン含有系統について

消費者の健康志向の高まりから、茶に含まれる機能性成分が注目されています。今回、抗酸化性や抗菌効果等の機能性を有するカテキンの高含有系統について本県での適応性を検討しましたので、その概要を報告します。

(独)野菜茶業研究所で育成された高カテキン含有6系統のうち、生育が良く樹冠幅が大きかったのはF167025、F167396、F167480でした。これら3系統は収穫時期が他の3系統より遅かったが、一番茶および二番茶の収量は多くなりました。病害虫の発生はごく軽微であり、系統間差はありませんでした。寒害については、F167504で中程度、F167025、F167241、F167516で軽度の葉枯れと落葉が見られました(表1)。

生育の良かった3系統について、カテキン類を調査した(分析を工業技術センターへ依頼)ところ、いずれも含有率は、一番茶では約17~18%であり‘やぶきた’より3~4%多く、二番茶では約18~20%で‘やぶきた’との差はほとんどありませんでした(表2)。

一般には、一番茶よりも二番茶のカテキン含有率が高いとされており、今回も同様の結果となりました。しかし、二番茶では高カテキン含有系統と‘やぶきた’との差がほとんどなく、高カテキン含有系統としての特性が充分には現れませんでした。(独)野菜茶業研究所の調査では、これら3系統の一番茶のカテキン含有率は約20~22%であり、今回の調査はこれを下まわり

しました。今のところこの原因は明らかではありません。平成15年度も調査を続けるとともに、同系統の調査を実施している熊本県茶試、(独)野菜茶業研究所枕崎研究拠点での結果とも比較検討する予定です。

表1 高カテキン含有系統の生育・収量

系統名	2002年10月		2003年一番茶		二番茶		寒害
	樹高 (cm)	樹冠幅 (cm)	収穫日 (月/日)	収量 (g/m <sup>2</sup> )	収穫日 (月/日)	収量 (g/m <sup>2</sup> )	
F167025	56	99	5/9	323	7/3	253	2
F167241	55	76	5/6	256	6/30	152	2
F167396	56	105	5/12	337	7/3	337	1
F167480	54	95	5/9	322	7/3	268	1
F167504	50	78	5/6	392	6/30	197	3
F167516	52	75	5/3	254	6/30	240	2

注)寒害0(無)~5(多)

表2 高カテキン含有系統のカテキン類含有率(%)

系統名	一番茶	二番茶
F167025	16.7	19.0
F167396	16.6	18.3
F167480	18.1	19.9
やぶきた(比較)	13.9	19.3

[茶業試験場 小島 一郎]